

# 寅さん歩 その 15

## 江戸・東京(23区)の百名山-2



平野 武宏

深田久弥提唱の「日本百名山」は山男や山ガールが入門書や目標としており、昔の友人もはまっていましたが、山の上があまり好きでない寅次郎は興味を示さず、ウォーキングの世界に入りました。最近、NHKBS放映「グレートトラバース-2」で「日本百名山」踏破後、「日本二百名山」を一筆書きで、交通機関を使わず、すべての行程を、自分の足のみで踏破しているプロアドベンチャーレーサーの姿を知りました。

4年前に東京に移り住み、都内を歩き回っている寅次郎、図書館で「江戸・東京百名山に行く(手島宗太郎著)」を見つけ、アイデアをいただきました。国民の祝日「山の日」実施記念で、**全踏破に挑戦**したい気持ちになりました。筆者の手島氏が決めた「百名山」は今は現存しない山や築山・富士塚も含まれますが、最高峰は新宿区 44.6mの箱根山と知り、自分の足だけなどと言わずに、東京都シルバーパスも有効に使い、楽しみながら、踏破する新シリーズとします。

位置関係が分かるように、数の多い23区順に紹介します。

今回は一番多い品川区の残った8山です。数字は踏破した数の累計。最寄り駅は代表例で、都営線はシルバーパス利用可です。

### 〔品川区-2〕

#### ⑦ハツ山

ハツ山橋北、品川区と港区の境辺り

最寄駅 京浜急行線 北品川駅



「八ツ山橋」(写真上左)の名は正月の箱根駅伝で大手町から走ってきたランナーに監督・コーチの車が伴走を開始する地点として知られています。右手には石垣の高い緑の高台(写真上右)があり、「八ツ山」はこの辺りと推定しました。お台場を築くために削られたとのこと。正面に回ると、「旧岩崎家高輪別邸」で現在は三菱グループの倶楽部「三菱開東閣」がありました。明治33年(1899年)竣工、設計はコンドル氏)内には入れず、外からの撮影です。



## ⑧品川・御殿山

北品川4、5丁目 最寄駅 京浜急行線 北品川駅

「三菱開東閣」先の八ツ山交番前を「御殿山ヒルズ」方面に渡ると、道の角に立札がありました。『ここは御成門通り、江戸時代初めに「品川御殿」と呼ばれる将軍の館が設けられていました。特に三代将軍家光によって東海寺が建てられてからは東海寺へのお成りや茶会・鷹狩りの時に休憩所として品川御殿を訪れています。将軍がお成りになった道筋としてその名が残ったと推定できます』と記載。道を進むと「原美術館」(写真下左)があり、左折し、坂を下ると「御殿山庭園」(写真下右)がありました。



江戸時代の品川の海が見える桜の名所として広重が画いた「御殿山」はその姿形が大きく変わる事件が2回ありました。嘉永6年（1853年）ペリー来航であわてて人工砲台のお台場を築くための埋め立て用に削られました。跡地にはイギリス公使館が建てられましたが、完成寸前に攘夷の長州藩士に焼き討ちされました。イギリス人は桜の名所が外人に奪われた江戸庶民の怒りだと言ったそうです。

次は文明開化の到来で明治3年（1870年）鉄道を通すため切り崩されて、海の見えない部分だけに、御殿山の名が残りました。桜の木は残っているので、花見には良いと思います。

## ⑨ 八ツ山富士

北品川1丁目1 八ツ山コミュニティ道路内  
最寄駅 京浜急行線 北品川駅



「新旧八ツ山橋」の間に出来たコミュニティ道路に品川宿から京三条大橋までの宿場名を彫った石柱が並び、築山の富士山があり、「八ツ山富士」と称するとしていますが、草木で覆われてわかりません。

## ⑩ 品川富士

北品川3丁目7 品川神社内  
最寄駅 京浜急行線 新馬場駅

こちらは一目でわかる「品川富士」（写真下左で鳥居左の山）で「品川神社」の階段を上る途中、左に富士塚の品川富士への登山道（写真下右）があります。



1 合目から山頂（写真下右）までは約 6 m の高さです。写真下左は六合目から見上げる山頂です。下の道路から山頂は約 15 m。



写真右は山頂からの眺めで、下の道路は第一京浜、電車は京浜急行線です。品川の海はビルで見えなくなりました。

寅さん歩 その 9 東京の富士塚めぐり-5 参照ください。



## ⑪ 品川・権現山

北品川 3 丁目 8 権現山公園

最寄駅 京浜急行線 北品川駅/新馬場駅

品川神社の裏手にある「権現山公園」が名残とのこと。下を走る JR 線路を挟んで向かいには御殿山です。御殿山とつながっていて、鉄道敷設で削り取られたとのこと。「権現山」への上り口（写真左）と今の頂上（写真右）です。



## ⑫ 品川・大山

北品川4丁目11 東海寺大山墓地全域

最寄駅 京浜急行線 新馬場駅

三代将軍徳川家光により創建された「東海寺」の敷地は品川神社からJR線を越えた「大山墓地」までありました。

家光に重用された「沢庵和尚」は開山に迎えられ、ここに眠っています。江戸国学者の賀茂真淵、江戸天文暦学者・囲碁棋士の渋川晴海、官営品川硝子製作所の西村勝三、鉄道の父の井上勝、歌手の島倉千代子の墓がありますが、東海道線と山手線・東海道新幹線の分岐点のデルタ地帯ではうるさくてさぞ、睡眠不足のことでしょう。



写真上は大山墓地上り口。

写真上右は沢庵和尚の墓。

写真右は島倉千代子の墓。

寅さん歩 その10 健康ご利益  
めぐり-26 品川区を参照ください。

## ⑬ クヌギ山

東大井4丁目1, 2 旧仙台坂上一帯

最寄駅 京浜急行線 青物横丁駅

江戸時代（1603年～1867年）この坂（写真下左）の中程から上にかけて仙台藩 伊達陸奥守下屋敷があったことから「仙台坂」と呼ばれていました。現在は青物横丁に抜ける坂道が拡幅され、交通量が増えたため、そちらを「仙台坂」と呼び、こちらは「旧仙台坂」となりました。住宅が立ち並ぶ坂上一帯が「クヌギ山」とのこと。クヌギの濃い森の山で「仙台坂」は別名「くらやみ坂」、「ゆうれい坂」と呼ばれたとのこと。写真下左は旧仙台坂の上り口、右は坂上で伊達家の庭園にあった樹齢推定約300年の「仙台坂のタブノキ」が今でも一帯を見守っていました。



## ⑭ 土佐山

東大井4丁目、大井公園、立会小学校一帯  
最寄駅 京浜急行線 鮫洲駅

名前の通り、土佐藩 山内家下屋敷があった所です。幕末の四賢君と言われた第15代藩主 山内容堂の墓もあります。山内家の家祖は女房のへそくりで買った名馬が戦功をあげたあの山内一豊です。写真下左は「土佐山」上り口、右は山頂にある山内容堂の墓です。



## 【こぼれ話】 坂本龍馬と品川

嘉永6年（1853年）黒船4艘によるペリー来航の折、土佐藩より剣術修行で江戸に来ていた「坂本龍馬」は土佐藩品川下屋敷近くにあった浜川砲台の警備にあたりました。

浜川砲台は京浜急行線立会川駅近くにあり、「20歳の龍馬像」（写真下）が立会川駅傍にあります。高知桂浜にあるものと同じ姿で、平成元年（1989年）の修復の時の高知桂浜の像の金属片が溶かし込んであるそうです。

その後、土佐に戻った龍馬は土佐藩を脱藩し、薩長同盟結成に奔走し、徳川幕府が大政奉還する影の立役者として活躍をしています。31歳の若さで暗殺されてしまったことは近代日本にとって大きな損失でした。



以前、「寅さん歩」でお話ししましたが、坂本龍馬の誕生日は平野寅次郎と同じ11月15日、暗殺された日も11月15日。午年生まれの平野寅次郎、生まれ変わりではと思った時もありましたが、どうやら出来が違ったようです。

次回は江戸・東京（23区）の百名山-3です。

平野 寅次郎 拝